

第 52 回日本母性衛生学会

演 題：前額部の表面温分布と額式体温計の測定部位による検温値特徴

発表者：黒石純子（ピジョン(株)中央研究所）

本 文：

【目的】腋窩検温が困難な小児などでは額表面温を短時間で測り体温を推測する額式体温計が有効である。しかし誤差要因である額内の温度差については情報が少ない。本発表では額表面温分布特徴と、測定部位による検温値の差について報告する。【方法】[調査 1]生後 3～5 ヶ月児 9 名を対象に、額式体温計（Pigeon,H20）試作品により額 3 部位（額中央,眉上,額横）の表面温を調べた。また熱画像により温度分布を観察した。[調査 2]保育園児 16 名（0～3 歳）を対象に 6 ヶ月間毎日、同体温計で検温し(n=979)、表面温から推測された体温（補正温）を調べた。額式体温計の推奨測定部位は額中央部であった。【結果】調査 1 の表面温平均は額中央  $34.3\pm 0.5^{\circ}\text{C}$ 、眉上  $34.5\pm 0.6^{\circ}\text{C}$ 、額横  $35.0\pm 0.6^{\circ}\text{C}$  で全部位間に有意差を認めた。部位間には  $r=.58\sim .90$  の相関を認めた。連続測定では額中央と眉上が額横と比べ安定していた。熱画像により額横は温度分布の個人差や頭髮による誤差が大きいことが示唆された。調査 2 の補正温平均は額中央  $36.6\pm 0.5^{\circ}\text{C}$ 、眉上  $36.7\pm 0.4^{\circ}\text{C}$ 、額横  $37.1\pm 0.4^{\circ}\text{C}$  で全部位間に有意差を認めた。部位間には  $r=.53\sim .75$  の相関を認めた。【結論】額の異なる部位で検温した場合、相互に相関はあるが温度差があり、特に額正面（中央・眉上）と額横では温度差が大きかった。常に製品推奨部位の同一箇所測定することが安定した検温のために大切である。